

(株) 小高ワーカーズベース 和田 智行 さん



Odaka
Worker's
Base

株式会社小高ワーカーズベース

ミッションは『地域の100の課題から100のビジネスを創出する』。小高区に多様なスモールビジネスを創出し続けることにより、地域に創造性や起業家精神溢れる風土を醸成し、1000人を雇用する一つの企業・産業だけに依存する地域ではなく、10人を雇用する100の多様な事業者が躍動する持続可能な地域となり、自立していくことを目指しています。

和田さん年表

- 震災前 2005年に南相馬市小高区にUターン。東京のITベンチャー2社の役員として小高区でリモートワーク生活を送る
- 2011年 自宅が警戒区域に指定され強制避難。避難先5か所を転々とする
- 2012年 避難場所を会津若松市に定める
- 2014年 「小高ワーカーズベース」オープン
(株) 小高ワーカーズベース設立
「おだかのひるごはん」オープン
- 2015年 「HARIOランプワークファクトリー 小高」設立
「東町エンガワ商店」オープン
- 2016年 「おだかのひるごはん」閉店
- 2017年 Next Commons Lab南相馬 スタート
- 2018年 「NARU」オープン
「東町エンガワ商店」閉店
- 2019年 「iriser-イリゼ-」リリース
「小高パイオニアヴィレッジ」オープン&グッドデザイン賞受賞



フェーズ1：生活環境づくり

2014年5月、まだ避難指示区域だった小高区に、避難指示区域初のコワーキングスペース「小高ワーカーズベース」をオープン。現場で事業を生み出すための基地（ベース）を置きながら、同12月には、地元のお母さんたちとともに3.11後小高区初の食堂「おだかのひるごはん」オープン。日替わり定食をメインに地域に温かい食事を提供し、食事ができないという課題を解決してきた。2015年9月には南相馬市からの受託で、仮設スーパー「東町エンガワ商店」を小高駅前にオープン。地域住民の帰還に必要な日用品・食料品を提供するとともに、2017年に開校した小高産業技術高校の生徒のたまり場ともなった。

フェーズ2：仕事・生きがいづくり

『どうせ小高はもう若者は帰ってこない』そんなあきらめの声に対し、『若者にとって魅力的な仕事を創れば居住しなくても働きには来るはず』という仮説を立て、地域の女性をガラス職人として雇用・育成しハンドメイドガラスアクセサリを製造・販売する事業を開始。時間に縛られない自由な働き方を提供している。現在は、「HARIOランプワークファクトリー」社の商品の受注生産と、独自ブランド「iriser-イリゼ-」の製造・販売の2軸で事業を展開している。事業拡大のためガラス職人募集中。



フェーズ3：事業者コミュニティづくり

ともに100の事業を創出する起業家・事業者のコミュニティをつくるべく、ローカルベンチャープログラム「Next Commons Lab 南相馬」をスタート。全国から8人の起業家と1人のコーディネーターを誘致。その起業家の活動拠点としているゲストハウス併設型コワーキングスペース「小高パイオニアヴィレッジ」の10月現在の会員数は56名、宿泊は起業家やリモートワーカーの長期利用を中心に月平均150泊ご利用いただいている。また、中心市街地活性化を目的としたキッズスペース併設型コワーキングスペース「NARU」では、多様な働き方を実現するための各種講座を提供している。